

船橋市リハビリセンター
平成27年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
(1)	組織編成	1
(2)	情報システムの構築	2
(3)	職員の資質向上	2
2	サービス機能	2
(1)	職員配置	2
(2)	提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
(1)	回復期病棟を持つ病院との連携	4
(2)	医師会との連携	4
(3)	地域の診療所や介護サービス事業者との連携	4
II	利用状況	6
1	外来患者	6
(1)	外来患者数	6
(2)	月別外来患者（延べ人数）内訳	6
(3)	年齢別・男女別外来患者内訳	8
(4)	疾患別外来患者内訳	8
(5)	地域別外来患者内訳	9
2	通所リハビリテーション利用者	10
(1)	通所リハビリテーション利用者数	10
(2)	月別通所リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	10
(3)	年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	11
(4)	疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	11
(5)	介護度別分類	12
(6)	地域別通所リハビリテーション利用者内訳	12
3	訪問リハビリテーション利用者	13
(1)	訪問リハビリテーション利用者数	13
(2)	月別訪問リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	13
(3)	年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	14
(4)	疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	15
(5)	介護度別分類	15
(6)	地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
4	訪問看護利用者	17
(1)	訪問看護利用者数	17

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	17
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	17
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	18
(5) 介護度別分類	19
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	19
5 地域リハビリテーション拠点事業	20
6 リハビリ事業	20
(1) パワーリハビリ教室	20
(2) パワーリハフォロー	21
(3) プールリハビリ	21
Ⅲ 収支状況	23
Ⅳ 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	25
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	25
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	27
(3) 目標3 通所リハビリ利用者について（介護福祉士の占める割合）	29
(4) 目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割 合100分の30以上	30
(5) 目標5 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	31
(6) 目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	33
(7) 目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、 勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	35
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	36
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	38
(10) 目標10 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	39
(11) 目標11 財務内容の改善に関する事項（診療所）	41
(12) 目標12 財務内容の改善に関する事項（訪問看護）	43
(13) 目標13 地域リハビリテーション拠点事業	44

（資 料）

資料1 組織図	資料7 訪問看護アンケート
資料2 センター内外の研修・学会	資料8 リハビリ事業アンケート
資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績	
資料4 外来患者アンケート	
資料5 通所リハビリテーションアンケート	
資料6 訪問リハビリテーションアンケート	

I 管理の実施状況 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は、センター長を補佐する役割として、副センター長を配置した。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

C 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

D サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

① 医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。両委員会において、それぞれマニュアルを作成し、マニュアルに沿った業務遂行の徹底を図った。

② 個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・

苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えた。

③ サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整えた。生花の配置、患者満足度調査等を行った。また、センター運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を法人情報誌及びホームページにて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行ない、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制についても研修を行った。

職員には全体会議や朝のミーティングを通じて、社会人や大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇に関する研修を行うなど意識付けを行った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	平成27年度
院長兼医師	1
副センター長（兼務）	1
チームマネジャー（兼務）	2
看護師	5（1）
ケアワーカー	2（1）
理学療法士	9（2）
作業療法士	5
言語聴覚士	1

ソーシャルワーカー	1
健康運動指導士	2 (1)
サポート部(事務)	5 (1)
運転手	5 (5)
総計	36

() 内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア) 外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ) 通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ90分で行った。

ウ) 訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援する訪問看護ステーションを平成27年4月より開設した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活が送れるように24時間の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めた。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーションの普及を図る目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会を年2回、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会を年10回・地区勉強会（年3回）・摂食栄養サポート勉強会（年2回）の計15回を実施し、市民向け講演会（年2回）、市民向け研修会（年2

回)を実施したほか、センターパンフレット・地域リハビリ推進用リーフレット・センター刊行物の作成及び配布、ホームページ開設運営、生活期リハに関する調査研究報告(2回)を行った。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

カ) リハビリ事業

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関に出向き、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。また、近隣医療機関に出向き、情報交換を行った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

① 船橋市地域リハ研究会と連携し、研究会の運営に貢献すると共に、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。

② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。また、SWが「顔の見える連携作り委員会」に参加し、会の運営に協力した。

③ 介護報酬改定に伴い、船橋市支援専門協議会の介護支援専門員に対して改定についての説明会を開催した。

④ 船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会に参加し、会員である市内外のSWと情報交換を行った。

⑤ 「船橋市通所リハビリテーション連絡会」「船橋市訪問リハビリテーション連絡会」「船橋市デイサービス勉強会」「船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会」と連携をはかり、会の運営に協力した。

リハビリテーション総合相談件数

(重複あり)

	センター事業に関すること			センター以外に関することの相談	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関すること	リハビリ事業に関すること	その他		
平成27年4月	23人	0人	0人	0人	0人
平成27年5月	27人	0人	0人	0人	0人
平成27年6月	23人	0人	0人	1人	0人
平成27年7月	27人	3人	0人	0人	0人
平成27年8月	35人	2人	0人	3人	0人
平成27年9月	25人	1人	0人	1人	1人
平成27年10月	24人	2人	0人	2人	0人
平成27年11月	25人	3人	0人	1人	0人
平成27年12月	24人	6人	0人	2人	0人
平成28年1月	18人	1人	0人	3人	0人
平成28年2月	29人	6人	0人	2人	0人
平成28年3月	33人	1人	0人	3人	0人
合計	313人	25人	0人	18人	1人

相談内容の主なものは、リハビリセンターにおけるリハビリ内容についての問い合わせである。

センター以外に関する相談の内容として、

- ・他院にリハビリ目的で入院中の家族より、今後のリハビリをどのように考えていけばよいかの相談（リハビリについて退院後の一般的な流れを説明した上で、当該病棟にはSWがいると思われるため、相談してみることをお勧めした）

- ・脳卒中で急性期に入院中であるが、このまま自宅退院になることは心配という相談（主治医と話ができていないとのことであったため、一度話を聞いてみることを提案。場合によって、回復期リハ病棟を経て退院準備をした上で生活を始められるケースもあることをお伝えした）

- ・外部のケアマネジャーより、他県の病院から退院してくる方（ケアマネジャーは入浴が課題と認識している）に対し、初回の自宅訪問を前に、どこを気をつけていけば良いかという相談（初回訪問時の一般的な注意点をセラピストから説明した）

などがあった。

Ⅱ 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける平成27年度の利用実績は以下の通りである。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	65	3,006

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	206.5
------	-------

①外来リハビリテーション実績 (単位：人)

区分	新規（初診）	再診	計
平成27年4月	6	192	198
平成27年5月	5	196	201
平成27年6月	5	244	249
平成27年7月	5	216	221
平成27年8月	3	202	205
平成27年9月	3	219	222
平成27年10月	6	250	256
平成27年11月	4	266	270
平成27年12月	2	283	285
平成28年1月	2	284	286
平成28年2月	1	293	294
平成28年3月	6	313	319
合計	48	2,958	3,006
1日平均患者	0.2	14.3	14.5

②一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察） (単位：人)

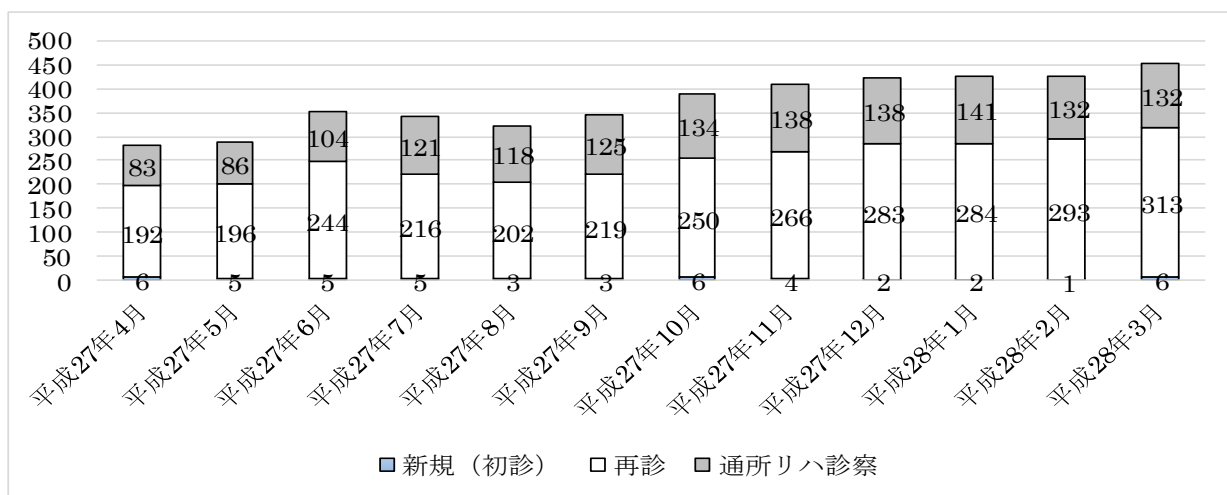
区分	通所リハ診察
平成27年4月	83
平成27年5月	86
平成27年6月	104
平成27年7月	121
平成27年8月	118
平成27年9月	125
平成27年10月	134
平成27年11月	138
平成27年12月	138
平成28年1月	141

平成 28 年 2 月	132
平成 28 年 3 月	132
合計	1,452
1 日平均患者	7.0

③外来診療実績（合計）

（単位：人）

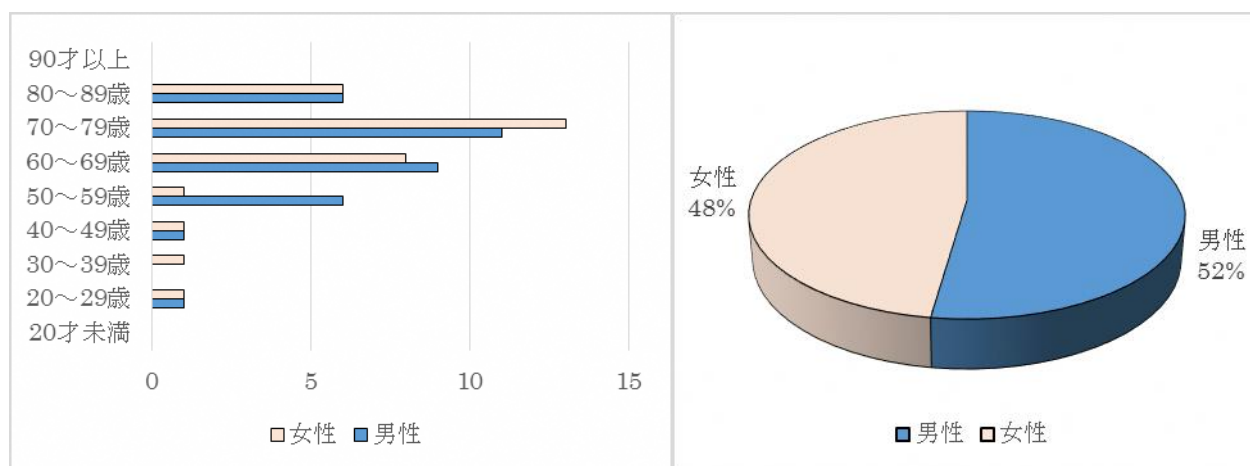
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診療	計
平成 27 年 4 月	6	192	83	281
平成 27 年 5 月	5	196	86	287
平成 27 年 6 月	5	244	104	353
平成 27 年 7 月	5	216	121	342
平成 27 年 8 月	3	202	118	323
平成 27 年 9 月	3	219	125	347
平成 27 年 10 月	6	250	134	390
平成 27 年 11 月	4	266	138	408
平成 27 年 12 月	2	283	138	423
平成 28 年 1 月	2	284	141	427
平成 28 年 2 月	1	293	132	426
平成 28 年 3 月	6	313	132	451
合計	48	2,958	1,452	4,458
1 日平均患者	0.2	14.3	7.0	21.5



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

(単位：人)

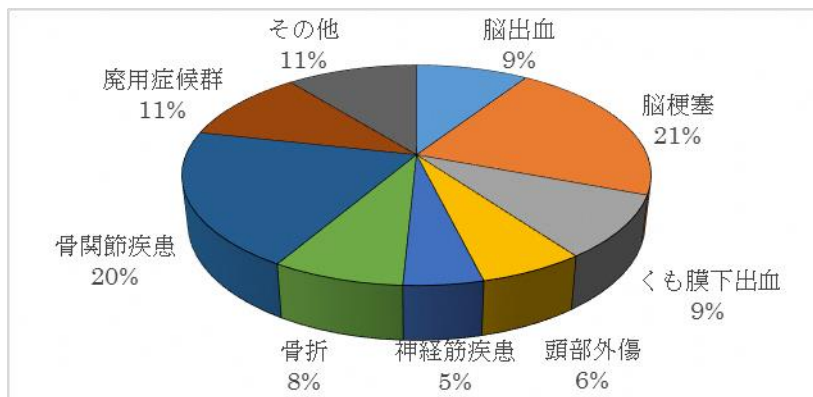
年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	1	1	2	3.1%
30～39才	0	1	1	1.5%
40～49才	1	1	2	3.1%
50～59才	6	1	7	10.8%
60～69才	9	8	17	26.2%
70～79才	11	13	24	36.9%
80～89才	6	6	12	18.5%
90才以上	0	0	0	0.0%
合計	34	31	65	100.0%
平均年齢	68.6	69.4	69	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	6	9.2%
脳梗塞	14	21.5%
くも膜下出血	6	9.2%
頭部外傷	4	6.2%
神経筋疾患	3	4.6%
骨折	5	7.7%
骨関節疾患	13	20.0%
廃用症候群	7	10.8%
その他	7	10.8%
合計	65	100.0%

脳血管疾患：46.1%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	13	20%
船橋市前原	15	23.1%
船橋市二宮	4	6.2%
船橋市薬円台	3	4.6%
船橋市宮本	1	1.5%
船橋市湊町	1	1.5%
船橋市田喜野井	1	1.5%
船橋市七林町	2	3.1%
船橋市咲が丘	1	1.5%
船橋市新高根	1	1.5%
船橋市中野木	1	1.5%
船橋市三山	3	4.6%
船橋市芝山	5	7.7%
船橋市高野台	2	3.1%
船橋市習志野台	1	1.5%
船橋市印内	1	1.5%
船橋市大穴南	1	1.5%
その他県内	9	13.8%
合計	65	100.0%

2 通所リハビリテーション患者

(1) 通所リハビリテーション利用者数

(単位：人)

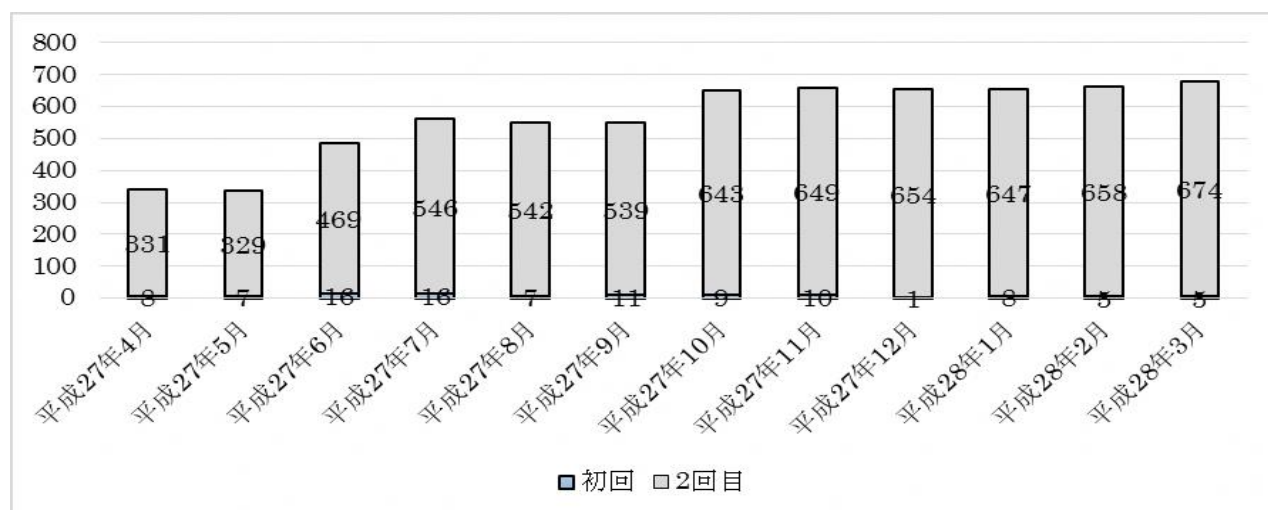
	実患者数	延べ患者数
計	139	6,784

(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	206.5
------	-------

(単位：人)

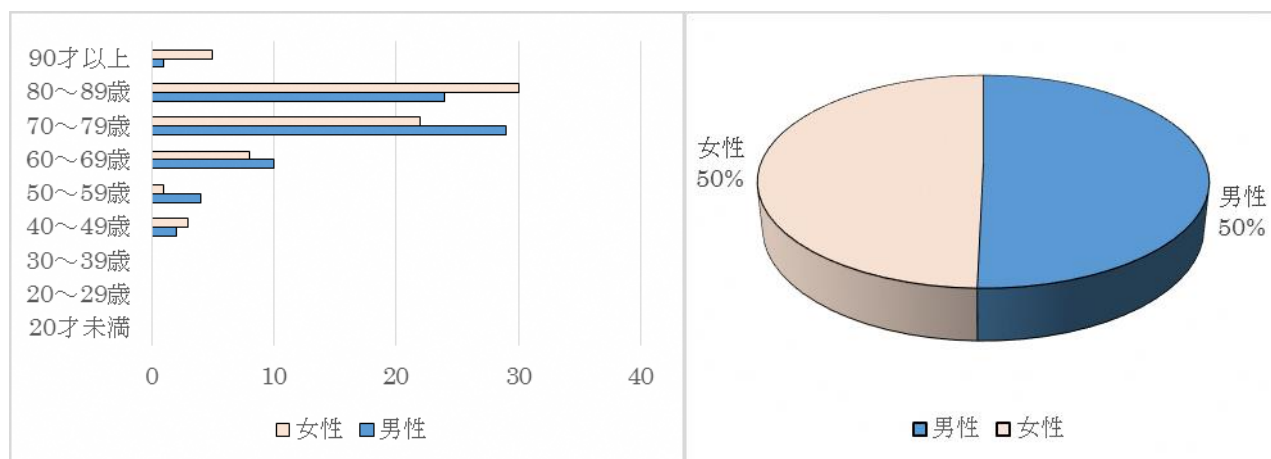
区分	初回	2回目以降	計
平成27年4月	8	331	339
平成27年5月	7	329	336
平成27年6月	16	469	485
平成27年7月	16	546	562
平成27年8月	7	542	549
平成27年9月	11	539	550
平成27年10月	9	643	652
平成27年11月	10	649	659
平成27年12月	1	654	655
平成28年1月	8	647	655
平成28年2月	5	658	663
平成28年3月	5	674	679
合計	103	6,681	6,784
1日平均患者	0.5	32.3	32.8



(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳

(単位：人)

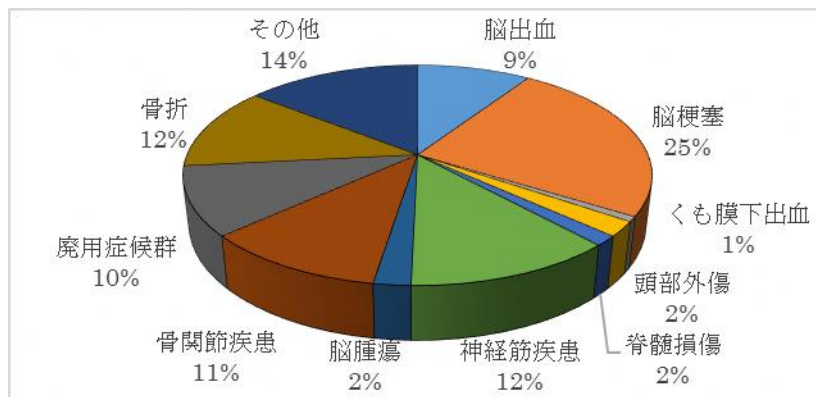
年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	3	5	3.6%
50～59才	4	1	5	3.6%
60～69才	10	8	18	12.9%
70～79才	29	22	51	36.7%
80～89才	24	30	54	38.9%
90才以上	1	5	6	4.3%
合計	70	69	139	100.0%
平均年齢	75.5	77.7	76.6	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合
脳出血	13	9.4%
脳梗塞	34	24.5%
くも膜下出血	1	0.7%
頭部外傷	3	2.2%
脊髄損傷	2	1.4%
神経筋疾患	17	12.2%
脳腫瘍	3	2.2%
骨関節疾患	15	10.8%
廃用症候群	14	10.0%
骨折	17	12.2%
その他	20	14.4%
合計	139	100.0%

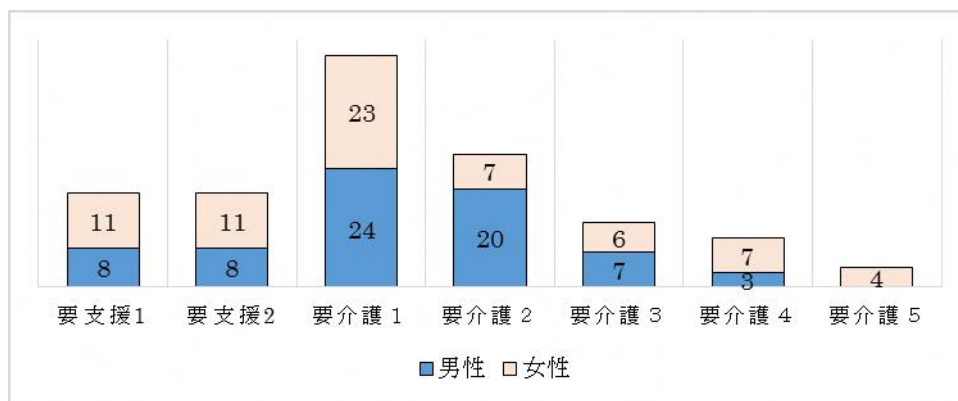
脳血管疾患：36.8%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	8	11	19	13.7%
要支援 2	8	11	19	13.7%
要介護 1	24	23	47	33.8%
要介護 2	20	7	27	19.4%
要介護 3	7	6	13	9.3%
要介護 4	3	7	10	7.2%
要介護 5	0	4	4	2.9%
合計	70	69	139	100.0%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市新高根	1	0.7%
船橋市丸山	2	1.4%
船橋市高根台	5	3.6%
船橋市三山	6	4.3%
船橋市七林町	1	0.7%
船橋市芝山	12	8.6%
船橋市習志野	5	3.6%
船橋市習志野台	5	3.6%

船橋市駿河台	2	1.4%
船橋市高野台	1	0.7%
船橋市前原	29	20.9%
船橋市大穴南	1	0.7%
船橋市薬円台	6	4.3%
船橋市中野木	3	2.2%
船橋市坪井東	2	1.4%
船橋市田喜野井	6	4.3%
船橋市二宮	11	7.9%
船橋市飯山満町	34	24.5%
その他県内	7	5.1%
合計	139	100.0%

3 訪問リハビリテーション利用者

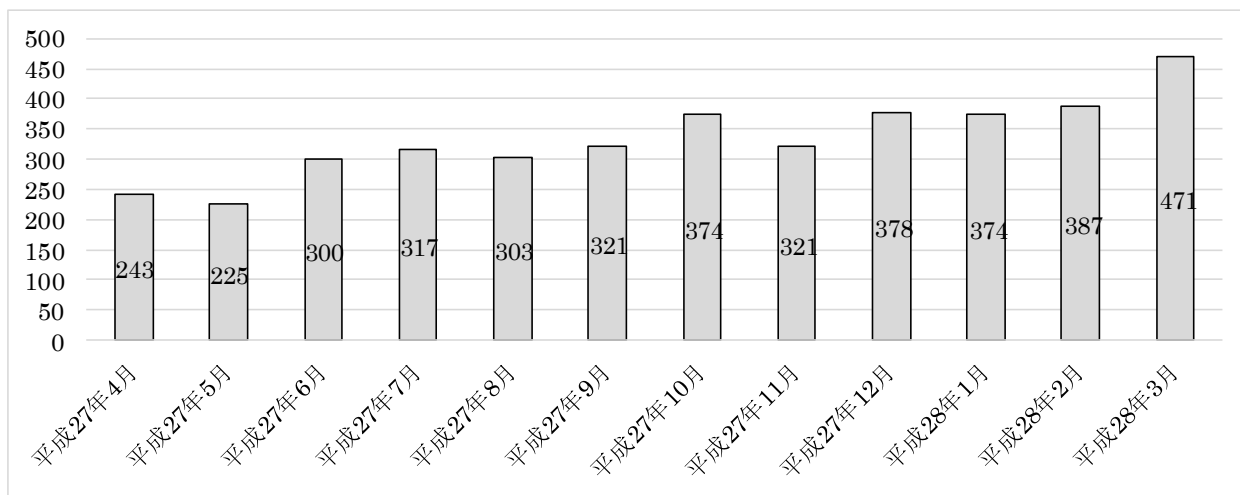
(1) 訪問リハビリテーション利用者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	77	4,015

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

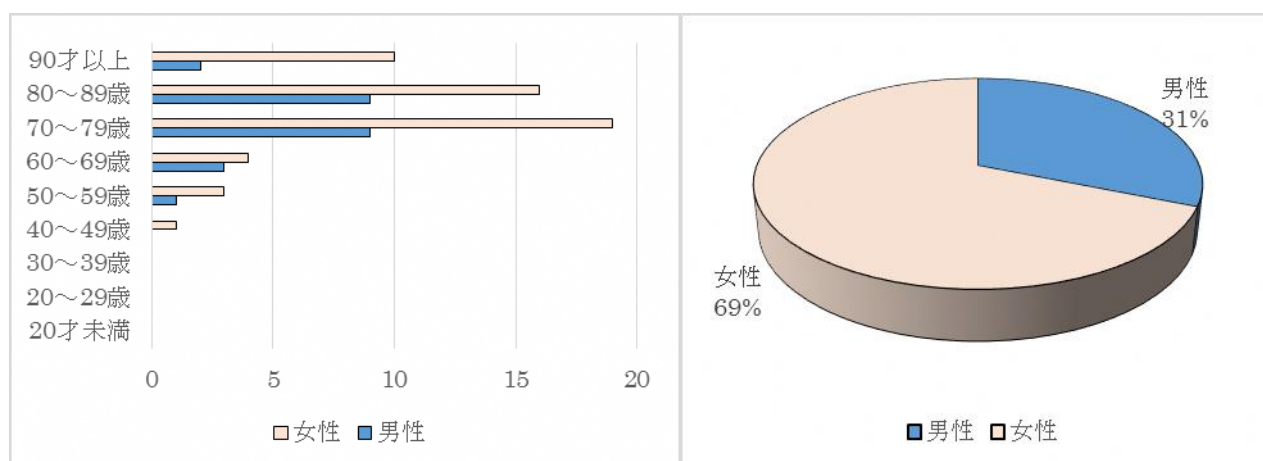
診療日数	244
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
平成 27 年 4 月	4	239	243
平成 27 年 5 月	8	217	225
平成 27 年 6 月	5	295	300
平成 27 年 7 月	10	307	317
平成 27 年 8 月	5	298	303
平成 27 年 9 月	10	311	321
平成 27 年 10 月	9	366	375
平成 27 年 11 月	3	318	321
平成 27 年 12 月	7	371	378
平成 28 年 1 月	5	369	374
平成 28 年 2 月	3	384	387
平成 28 年 3 月	12	459	471
合計	81	3,934	4,015
1 日平均患者	0.3	16.1	16.4



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳 (単位：人)

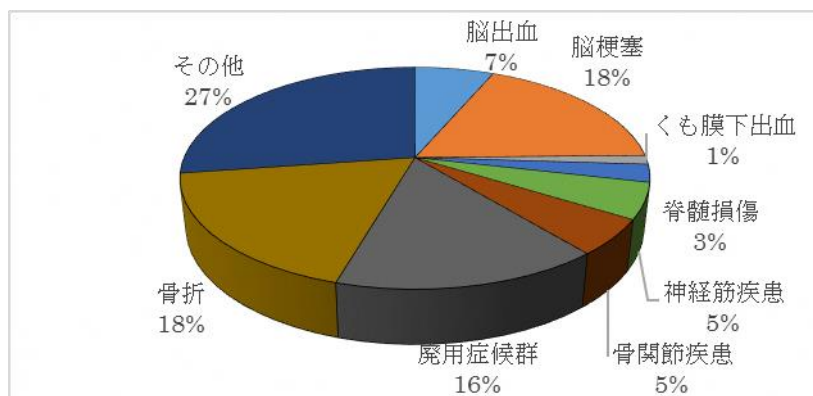
年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	0	1	1	1.3%
50～59才	1	3	4	5.2%
60～69才	3	4	7	9.1%
70～79才	9	19	28	36.3%
80～89才	9	16	25	32.5%
90才以上	2	10	12	15.6%
合計	24	53	77	100.0%
平均年齢	77.4	78.3	77.9	



(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

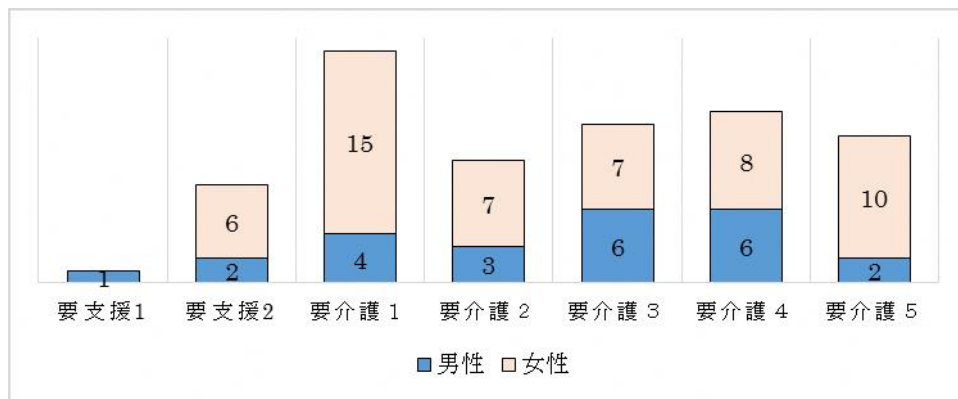
疾患名	患者数	構成割合
脳出血	5	6.5%
脳梗塞	14	18.2%
くも膜下出血	1	1.3%
頭部外傷	0	0.0%
脊髄損傷	2	2.6%
神経筋疾患	4	5.2%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	4	5.2%
廃用症候群	12	15.6%
骨折	14	18.2%
その他	21	27.2%
合計	77	100.0%

脳血管疾患：26.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	1	0	1	1.3%
要支援 2	2	6	8	10.4%
要介護 1	4	15	19	24.6%
要介護 2	3	7	10	13.0%
要介護 3	6	7	13	16.9%
要介護 4	6	8	14	18.2%
要介護 5	2	10	12	15.6%
合計	24	53	77	100.0%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市七林	1	1.3%
船橋市高根台	6	7.8%
船橋市三山	7	9.1%
船橋市芝山	7	9.1%
船橋市若松	1	1.3%
船橋市習志野	4	5.2%
船橋市習志野台	10	13.0%
船橋市坪井東	1	1.3%
船橋市新高根	4	5.2%
船橋市前原西	9	11.7%
船橋市前原東	8	10.4%
船橋市中野木	2	2.6%
船橋市田喜野井	4	5.2%
船橋市東船橋	2	2.6%
船橋市飯山満町	3	3.9%
船橋市浜町	1	1.3%
船橋市薬円台	5	6.5%
船橋市二宮	1	1.3%
船橋市二和東	1	1.3%
合計	77	100%

4 訪問看護利用者

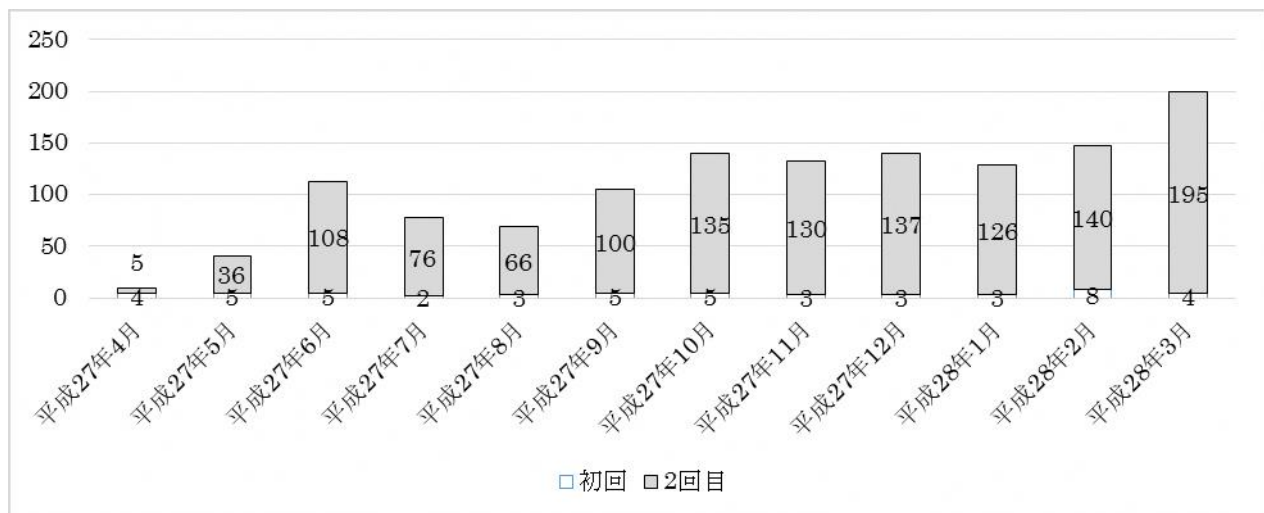
(1) 訪問看護利用者数

	実患者数	延べ患者数
計	50	1,304

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

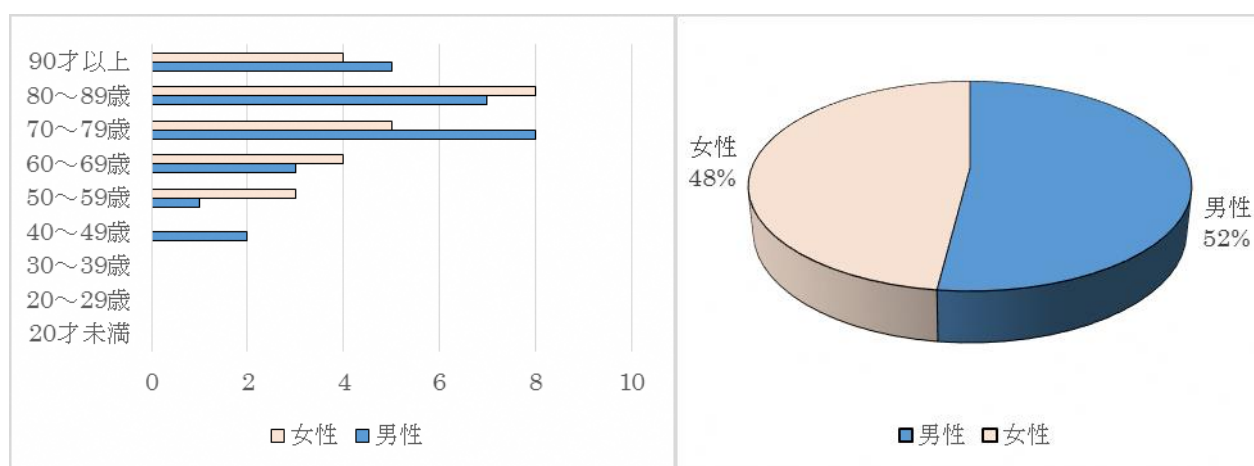
診療日数	244
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
平成27年4月	4	5	9
平成27年5月	5	36	41
平成27年6月	5	108	113
平成27年7月	2	76	78
平成27年8月	3	66	69
平成27年9月	5	100	105
平成27年10月	5	135	140
平成27年11月	3	130	133
平成27年12月	3	137	140
平成28年1月	3	126	129
平成28年2月	8	140	148
平成28年3月	4	195	199
合計	50	1,254	1,304
1日平均患者	0.2	5.1	5.3



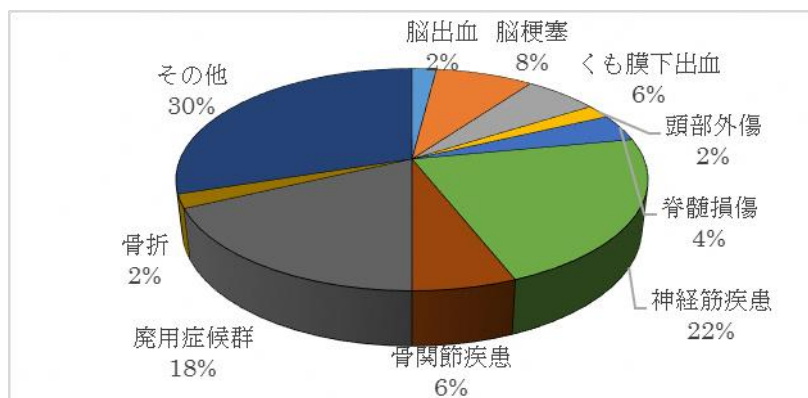
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	0	2	4.0%
50～59才	1	3	4	8.0%
60～69才	3	4	7	14.0%
70～79才	8	5	13	26.0%
80～89才	7	8	15	30.0%
90才以上	5	4	9	18.0%
合計	26	24	50	100.0%
平均年齢	76.8	77.6	79.2	



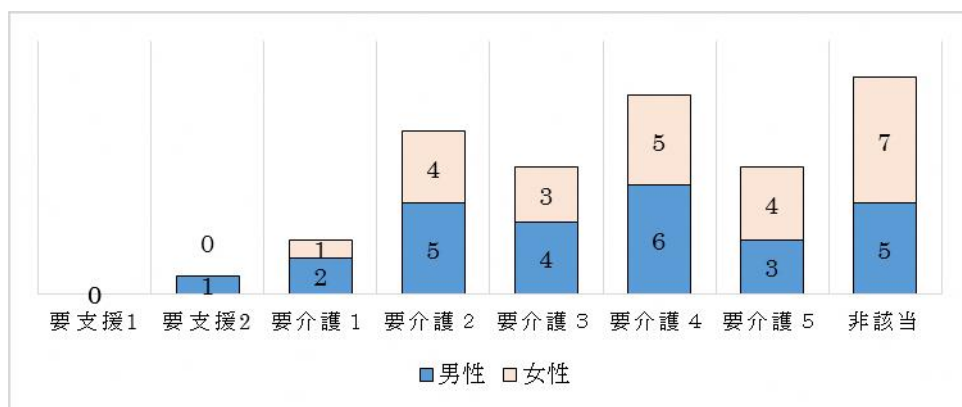
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	1	2.0%
脳梗塞	4	8.0%
くも膜下出血	3	6.0%
頭部外傷	1	2.0%
脊髄損傷	2	4.0%
神経筋疾患	11	22.0%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	3	6.0%
廃用症候群	9	18.0%
骨折	1	2.0%
その他	15	30.0%
合計	50	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	0	0	0	0.0%
要支援 2	1	0	1	2.0%
要介護 1	2	1	3	6.0%
要介護 2	5	4	9	18.0%
要介護 3	4	3	7	14.0%
要介護 4	6	5	11	22.0%
要介護 5	3	4	7	14.0%
非該当	5	7	12	24.0%
合計	26	24	50	100.0%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	3	6.0%
船橋市前原	11	22.0%
船橋市二宮	6	12.0%
船橋市薬円台	3	6.0%
船橋市本町	2	4.0%
船橋市金杉	1	2.0%

船橋市田喜野井	1	2.0%
船橋市坪井東	1	2.0%
船橋市駿河台	1	2.0%
船橋市夏見台	2	4.0%
船橋市中野木	1	2.0%
船橋市三山	2	4.0%
船橋市芝山	2	4.0%
船橋市浜町	1	2.0%
船橋市習志野台	1	2.0%
船橋市三咲	1	2.0%
船橋市滝台	1	2.0%
船橋市高根台	3	6.0%
その他県内	7	14.0%
合計	50	100.0%

5 地域リハビリテーション拠点事業

平成27年度の地域リハビリテーション拠点事業実績は別添資料の通り実施した。開催した内容としては、リハビリ関係者向け講演会 計2回、リハビリ関係者向け研修会 計15回、市民向け講演会 計2回、市民向け研修会 計2回を実施し、開催回数は合計21回実施し参加者の総数は1,736名であった。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

①パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	779

②月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	89
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成27年4月	125	15
平成27年5月	57	15
平成27年6月	109	14
平成27年7月	102	14
平成27年8月	46	14
平成27年9月	66	9
平成27年10月	72	9

平成 27 年 11 月	40	9
平成 27 年 12 月	32	4
平成 28 年 1 月	29	4
平成 28 年 2 月	18	4
平成 28 年 3 月	83	9
合 計	779	—
1 日平均患者	8.75	—

(2) パワーリハフォローアップ

① パワーリハフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	6,927

② 月別パワーリハフォロー（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

（単位：人）

区分	利用者数	登録者数
平成 27 年 4 月	632	148
平成 27 年 5 月	532	146
平成 27 年 6 月	718	160
平成 27 年 7 月	671	158
平成 27 年 8 月	648	156
平成 27 年 9 月	588	168
平成 27 年 10 月	675	164
平成 27 年 11 月	601	162
平成 27 年 12 月	608	164
平成 28 年 1 月	384	163
平成 28 年 2 月	414	158
平成 28 年 3 月	456	157
合 計	6,927	—
1 日平均患者	28.39	—

(3) プールリハビリ

① プールリハビリ 利用者数

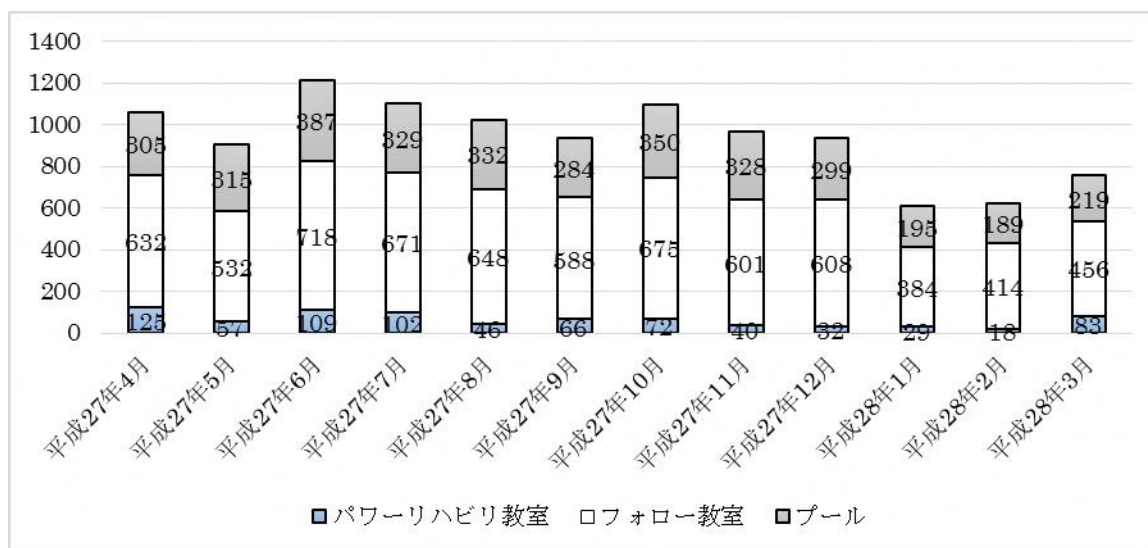
	延べ利用者数
計	3,532

②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

（単位：人）

区分	利用者数	登録者数
平成 27 年 4 月	305	97
平成 27 年 5 月	315	100
平成 27 年 6 月	387	100
平成 27 年 7 月	329	105
平成 27 年 8 月	332	106
平成 27 年 9 月	284	110
平成 27 年 10 月	350	109
平成 27 年 11 月	328	109
平成 27 年 12 月	299	109
平成 28 年 1 月	195	107
平成 28 年 2 月	189	105
平成 28 年 3 月	219	108
合計	3,532	—
1 日平均患者	14.48	—



Ⅲ 収支状況

平成27年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。平成27年度の指定管理料計画は125,796千円に対し、実績は126,973千円であり、概ね計画通りに指定管理事業を実施できている状況である。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ 事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	平成 27 年度 合計
医業 収益	利用料	0	0	2,810	0	0	2,810
	指定管理委託料	0	0	26,274	10,917	23,826	61,017
	医療・外来収益	19,807	4,172	0	0	0	23,979
	介護・外来収益	63,158	7,062	0	0	0	70,220
	受託検査・施設利用収益	0	0	0	0	0	0
	訪問看護収益	0	0	0	0	0	0
	その他医業収益	64	315	0	0	0	379
	計	83,029	11,549	29,083	10,917	23,826	158,404
	保険等査定減	-53	-17	0	0	0	-70
計		82,976	11,532	29,083	10,917	23,826	158,334
医業費用		129,063	31,401	19,607	12,012	21,294	213,377
医業利益		-46,087	-19,869	9,476	-1,095	2,532	-55,042
本部配賦額		0	0	0	0	0	0
事業利益		-46,087	-19,869	9,476	-1,095	2,532	-55,042
医業 外 収益	受取利息配当金	0	0	1	0	0	1
	有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
	患者外給食収益	0	0	0	0	0	0
	補助金・負担金	46,087	19,869	0	0	0	65,956
	その他の医業外収益	2	0	4	0	0	6
計		43,792	19,869	6	0	0	63,666
医業 外 費用	支払利息	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却損	0	0	0	0	0	0
	患者外給食材料費	0	0	0	0	0	0
	診療費減免	0	0	0	0	0	0
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0	0
	資産に係る控除対象外消費税等	0	0	0	0	0	0
	繰延消費税等償却	0	0	0	0	0	0
	その他医業外費用	0	0	9	0	0	9
計		0	0	9	0	0	9
経常利益		0	0	9,473	-1,095	2,532	10,911
特別 利益	固定資産売却益	0	0	0	0	0	0
	施設設備補助金等収入	0	0	0	0	0	0
	その他の特別利益	0	0	0	0	0	0
特別利益		0	0	0	0	0	0
特別 損失	固定資産廃棄売却損	0	0	0	0	0	0
	施設設備補助金等積立金繰入額	0	0	0	0	0	0
	有価証券評価損	0	0	0	0	0	0
	その他の特別損失	0	0	0	0	0	0
特別損失		0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益		0	0	9,473	-1,095	2,532	10,911
法人税・住民税及び事業税負担額		0	0	0	0	0	0
税金等調整額		0	0	0	0	0	0
当期純利益		0	0	9,473	-1,095	2,532	10,911

		診療所	訪問看護	リハビリ 事業	地域リハ	施設管理	平成 27 年度 合計
給与費	給料	84,067	19,297	12,213	6,798	0	122,375
	賞与	11,897	2,610	1,826	1,094	0	17,427
	賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	退職給付費用	899	509	110	142	0	1,660
	法定福利費	11,349	2,757	1,461	970	0	16,537
計		108,211	25,173	15,610	9,004	0	157,999
材料費	医薬品費	60	0	0	0	0	60
	診療材料費	287	17	172	0	0	475
	医療消耗器具備品費	79	92	8	0	0	179
	給食用材料費	0	0	0	0	0	0
	計	426	108	180	0	0	715
委託費	検査委託費	0	0	0	0	0	0
	給食委託費	0	0	0	0	0	0
	寝具委託費	0	0	0	0	0	0
	医事委託費	0	0	0	0	0	0
	清掃委託費	0	0	0	0	6,998	6,998
	保守委託費	309	0	0	0	101	410
	その他委託費	1,261	138	152	264	12,442	14,256
計		1,570	138	152	264	19,541	21,665
設備関係費	減価償却費	1,410	1,528	102	13	13	3,066
	機器賃借料	0	0	0	0	0	0
	地代家賃	5,789	335	0	0	0	6,124
	修繕費	235	0	63	40	0	338
	固定資産税等	32	0	13	0	0	45
	機器保守費	1,944	324	0	0	0	2,268
	機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
	車両関係費	1,965	777	0	0	0	2,742
計		11,375	2,964	178	53	13	14,583
研修費	研究費	0	0	0	0	0	0
	研修費	324	150	7	647	0	1,127
	計	324	150	7	647	0	1,127
経費	福利厚生費	63	3	69	1	0	135
	募集採用費	215	156	0	0	0	370
	旅費交通費	45	4	0	20	0	70
	職員被服費	1,686	358	166	54	0	2,264
	通信費	707	276	308	182	0	1,473
	広告宣伝費	0	0	0	587	0	587
	消耗品費	1,307	907	399	355	149	3,116
	消耗器具備品費	455	320	264	0	0	1,039
	図書費	36	20	2	2	0	59
	会議費	0	0	0	0	0	0
	水道光熱費	1,790	202	0	0	0	1,993
	賃借料	122	0	0	0	0	122
	保険料	193	31	83	0	0	306
	交際費	2	0	0	0	0	2
	諸会費	329	80	0	0	0	409
	租税公課	-111	509	2,189	789	1,590	4,966
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	支払手数料	212	0	0	0	0	213
	寄付金	0	0	0	0	0	0
	雑費	107	3	1	54	0	164
計		7,157	2,868	3,480	2,044	1,739	17,288
合 計		129,063	31,401	19,607	12,012	21,294	213,377

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。

2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。

- ### 1. 外来患者へのアンケート①から③の満足度

- | | | |
|-------------------|---|--------|
| 「満足」と「やや満足」を足した割合 | : | 95.8 % |
| 「満足」のみの割合 | : | 79.2 % |

- | | | |
|-------------------|---|---------|
| 「満足」と「やや満足」を足した割合 | : | 100.0 % |
| 「満足」のみの割合 | : | 87.5 % |

- | | | |
|-------------------|---|--------|
| 「満足」と「やや満足」を足した割合 | : | 87.5 % |
| 「満足」のみの割合 | : | 83.3 % |

- 「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合：100.0%

- 「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 100.0 %

平成26年度よりセンター内にサービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施していった。ラウンドでは患者及び利用者への接遇対応場面についてみてもらい、改善すべき

ところはスタッフへフィードバックをし、指導を行っていった。
また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、レイアウト変更や椅子を増やすなどし、待機場所の充実を図り、増加する患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。また「満足」のみの割合についても、60%以上で目標は達成された。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合がいずれも85%以上で目標を達成し、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成28年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅱ 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成27年度目標：

平成27年4月から平成28年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成27度実績：

① 平成27年4月から平成28年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：46名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：9名

※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 6名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成状況

開始目標	終了時の達成状況
ジムの利用が再開できる	スポーツクラブの利用を再開。週2回利用が出来るようになり終了。
痛みなく外出が出来る	公共交通機関を利用し成田山までの外出が可能になった
痛みのコントロールができる	自主トレーニングを指導し、自己メンテナンスが可能になり、外出機会が増えても痛みなく、家事が行えるようになった
ジョギングがしたい	自宅周囲でのジョギングが定着した
膝が痛くない生活をしたい	外出をしても膝の痛みがでなくなった プールを週3回利用できるようになった
町会の仕事に復帰したい	町会の仕事に復帰。庭木の手入れや家事も自立。

・通所介護への移行 3名

③ ①に占める②の割合：19%

目標達成に対する活動状況について

- ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

平成27度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は5%以上となり目標を達成した。リハビリテーションマネジメントの効果については、社会参加に資する取り組みを実施した割合が19%であることから、質の高いリハビリテーションを提供し利用者のADLとIADLについて維持・向上が実施できたことが裏付けられる。

平成28年度も平成27年度と同様に取り組んでいく。

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上

平成27年度目標：

介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合を100分の50以上とする。

平成27度実績：

介護福祉士の占める割合：100%

(全体の介護職員数2人　うち介護福祉士2人)

目標達成に対する活動状況について

- ①中重度の要介護者や認知症高齢者に対応できるケア体制を確保した。
- ②法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、無駄のない配置に努めた。
- ③介護サービスに従事する職員を対象とした、「在宅研修」を実施し、通所リハビリにおける介護職の役割について学びを深める機会を設けた。

平成27度の実績に基づく今後の改善点について

介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、介護福祉士の占める割合は100%の実績であり、非常に質の高い介護サービスが提供できたと言える。

平成28年度も引き続き、在宅生活を支援するため介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成27年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

平成27度実績：

勤続年数3年以上の者の占める割合：**93.3%**

（全体の職員数15人　うち勤続年数3年以上の職員数14人）

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。
- ②介護サービスに従事する職員を対象とした、「在宅研修」を実施し、通所リハビリにおける専門職の役割について学びを深める機会を設けた。

平成27度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は93.3%の実績となり、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

平成28年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標5 利用者アンケートによる患者満足度

平成27年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただきましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただきましたか。
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただきましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると考えていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると考えていますか。

平成27年度実績：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合	：	89.5 %
「満足」のみの割合	：	68.4 %
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	：	94.7 %
「満足」のみの割合	：	82.5 %
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただきましたか。

「満足」と「やや満足」を足した割合	：	78.9 %
「満足」のみの割合	：	59.6 %
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	：	93.0%
-------------------------	---	-------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	：	89.5%
-------------------------	---	-------

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

平成26年度よりセンター内にサービス向上委員会を設置し、輝生会本部接遇委員会立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施していった。ラウンドでは患者及び利用者への接遇対応場面についてみてもらい、改善すべきところはスタッフへフィードバックをし、指導を行っていった。また前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。また「満足」のみの割合については、60%以上で目標は達成された。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合がいずれも85%以上で目標を達成し、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成28年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成27年度目標：

平成27年4月から平成28年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成27年度実績：

① 平成27年4月から平成28年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：38名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：15名

※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ、訪問リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 4名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成状況

開始目標	終了時の達成状況
近くの駅まで歩いて往復できる。	駅まで歩き、食事や買い物が出来るようになった。
痛みがなく動けるようになる	痛みなく屋外歩行も可能となり、元々利用していたデイサービス利用が可能となった
ダンス教室の再開。公共交通機関を利用しての外出が1人でできる	ダンス教室を再開した。友人との食事会などに積極的に参加出来るようになった
町会の仕事に復帰したい (通所リハビリを併用利用)	町会の仕事に復帰。庭木の手入れや家事も自立。

・通所リハビリへ移行 10名

・通所介護への移行 1名

③ ①に占める②の割合：39%

目標達成に対する活動状況について

①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様

式例の提示について) 訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。

- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

平成27度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は5%以上となり目標を達成した。リハビリテーションマネジメントの効果については、社会参加に資する取り組みを実施した割合が39%であることから、質の高いリハビリテーションを提供し利用者のADLとIADLが維持・向上が実施できたことが裏付けられる。

平成28年度も平成27年度と同様に取り組んでいく。

目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成27年度目標：

利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。

平成27度実績：

理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合：92.3%

全体の職員数	理学療法士	6人	(うち勤続年数3年以上の者)	5人
	作業療法士	5人	(うち勤続年数3年以上の者)	5人
	言語聴覚士	2人	(うち勤続年数3年以上の者)	2人

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。
- ②介護サービスに従事する職員を対象とした、「在宅研修」を実施し、訪問リハビリにおける専門職の役割について学びを深める機会を設けた。

平成27度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は92.3%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。

平成28年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

平成27年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただきましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただきましたか。
 - ③訪問のスケジュールについてご満足いただきましたか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が75%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成27年度実績：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合	： 97.1%
「満足」のみの割合	： 80.0%
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	： 97.1%
「満足」のみの割合	： 82.9%
 - ③訪問リハビリのスケジュールについてご満足いただきましたか。

「満足」と「やや満足」を足した割合	： 71.4%
「満足」のみの割合	： 57.1%
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	： 100.0%
-------------------------	----------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	： 100.0%
-------------------------	----------

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

法人の教育研修局が基軸となり、訪問リハビリに従事する全職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。

また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④ 満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。また「満足」の割合については、60%以上で目標は達成された。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「維持できる」の割合がいずれも75%以上で目標を達成し、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏づけられる。

平成28年度もさらなる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅳ 訪問看護利用者について

目標9 利用者アンケートによる患者満足度

平成27年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成27年度実績：

①職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：100.0%

「満足」のみ割合：100.0%

②訪問看護の質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合：100.0%

「満足」のみ割合：100.0%

③訪問のスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：69.2%

「満足」のみ割合：61.5%

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護の満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合が100%、また「満足」のみの割合についても100%となり、非常に高い割合をもって目標を達成することができた。

平成28年度も患者満足度を下げることの無いように引き続き平成27年度と同様の活動を行い、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標10 利用者アンケートによる患者満足度

平成27年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成27年度実績：

①職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：95.6%

「満足」のみの割合：86.2%

②パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：90.0%

「満足」のみの割合：50.0%

③プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：82.5%

「満足」のみの割合：57.1%

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については目標5「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、上記目標5と同様な対応をとり満足度の向上を図った。

③待ち時間に対する満足度の向上

利用者が増加したことにより、定員を超えて事業を実施する日が生じたことから、施設管理上の安全面に支障をきたす状況が予想されたため、船橋市と協議し、利用者に対し平成28年1月から1人週1回を上限とした利用回数の制限をお願いした。

④利用者への説明会実施

11月に市職員、輝生会スタッフから利用者に対し、現在の事業の状況及び今後の事業運営について説明会を実施した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリ事業の満足度調査においては、職員の対応については、「満足」の割合、「満足」と「やや満足」を足した割合のいずれも目標を達成した。

しかしながら、パワーリハビリ・プールリハビリにおける満足度のうち、「満足」のみの割合については、目標達成には至らなかった。これはパワーリ

ハビリ・プールリハビリの利用者増加により施設の安全性の確保を行う目的で、リハビリ事業の利用回数を1人週1回を上限として制限したことにより、利用者の不満が生じたものであることが、利用者アンケートからも見て取れる。

平成28年度は、週1回を上限とするの利用制限を緩和し、さらには事業実施枠を増加する施策により患者満足度の向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標11 診療所部門 経常収支比率

平成27年度目標： 診療所経常収支比率 60%以上
平成27年度実績： 診療所経常収支比率 64.3% <u>※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出で合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。</u>
目標達成に対する活動状況について ① 増患対策 ・平成26年度診療報酬改定、及び、平成27年度介護報酬改定のリハビリテーションマネジメントの基本的考え方により、外来における維持期のリハビリテーション患者に対して、医療保険から介護保険サービスへ移行する傾向が強くなった。さらには、審査機関である支払基金からリハビリ減点が増加傾向にあることから、一層、医療でのリハビリ患者の整理が必要となった。これにより通所リハビリにおいて、従来1人当たり40分行っていた個別訓練をおよそ30分とし、クリニックにおけるリハビリ訓練枠を10枠から13枠へ増加することで、通所リハビリ利用者の増患対策を図った。 ・外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関との情報交換を行った。また、同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し外来リハビリへ移行する対象者のフローを作成し、リハビリテーションのシームレスな連携を図った。 ・通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。 ・介護報酬改定に伴い、介護支援専門員に対して改定についての説明会を開催し、改定後の通所リハビリの利用について理解を深めた。 ・実際に行うリハビリの単位実績を把握する他、利用の増加を予測した予測推計を更新することで、リハビリテーションサービスの供給量の適正に努めた。 ② 費用の削減 ・患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。
平成27年度の実績に基づく今後の改善点について ※外来患者述べ件数 平成28年3月実績 254件（平成27年4月対比 +94件） ※通所リハビリ延べ件数 平成28年3月実績 644件（平成27年4月対比 +340件） ※訪問リハビリ延べ件数

平成28年3月実績 471件（平成27年4月対比 +228件）

診療所の稼働状況は着実に増加傾向にあるが、医療保険による外来患者のうちリハビリ目的の受診は平成28年3月時点で122件（平成27年4月対比 +45件）。その他増加数は、通所リハビリ利用者における月1回の受診によるものである。

医業収益は82,976千円（計画比－13,902千円）、医業費用は129,063千円（計画比－26,771千円）。医業利益は－46,087千円。経常利益としては-2,295千円。平成27年度診療所経常収支比率においては64.3％と目標を達成した。

平成28年度においては診療報酬改定により予測される医療リハビリから介護サービスへの移行促進を勘案し、送迎枠の拡大や、PT2名、OT1名の増員により通所リハビリの増患を図る。さらに診療所の祝日運営を開始することで経常収支比率90％以上を計画する。

目標12 財務内容の改善に関する事項

平成27年度目標： 訪問看護経常収支比率 20%以上

平成27年度実績： 訪問看護経常収支比率 36.7%

※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出で合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し訪問看護へ移行する対象者のフローを作成し、回復期リハビリテーション病棟を退院する患者のシームレスな連携を図った。
- ・サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・地域におけるニーズと、他の訪問看護ステーションの実施状況を調査し、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活が送れるように24時間の緊急時の対応を行うこととした。

②費用の削減

- ・船橋市が運営する訪問看護ステーションからの備品等の引継ぎにより、新規開設時に必要な備品類の購入を効率的に削減することができた。
- ・計画的に人員配置を行うための募集採用費として、患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

船橋市リハビリセンター訪問看護ステーションが開設した初年度の実績としては、開始月と期末との比較としては、9件/月から開始したサービスが199件/月（190件増加）まで増加した。

医業収益は11,532千円（計画比 2,862千円）、医業費用は31,401千円（計画比－589千円）。医業利益は－19,869千円。（計画費 3,431千円）であり、平成27年度 訪問看護経常収支比率において36.7%と目標を達成した。

平成28年度においては、利用者の祝日の運営を開始し、さらに利用者の増加を図ることを計画し、経常収支比率70%以上を目標とする。

3. その他管理に関する重要事項

目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行なう

平成27年度目標：

地域リハビリテーション拠点事業に定めた事業内容を最低限行うこと。

平成27年度実績： 目標に対し全て達成した

目標達成に対する活動状況について

- | | |
|--|-------|
| ①リハビリセンターパンフレット作成 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 15回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 2回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、船橋市地域リハ研究会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

平成27年度の実績に基づく今後の改善点について

平成28年度も継続し、以下の項目を実施する。

- | | |
|--|------|
| ①リハビリセンターパンフレットの更新 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 3回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 2回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、船橋市地域リハ研究会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |